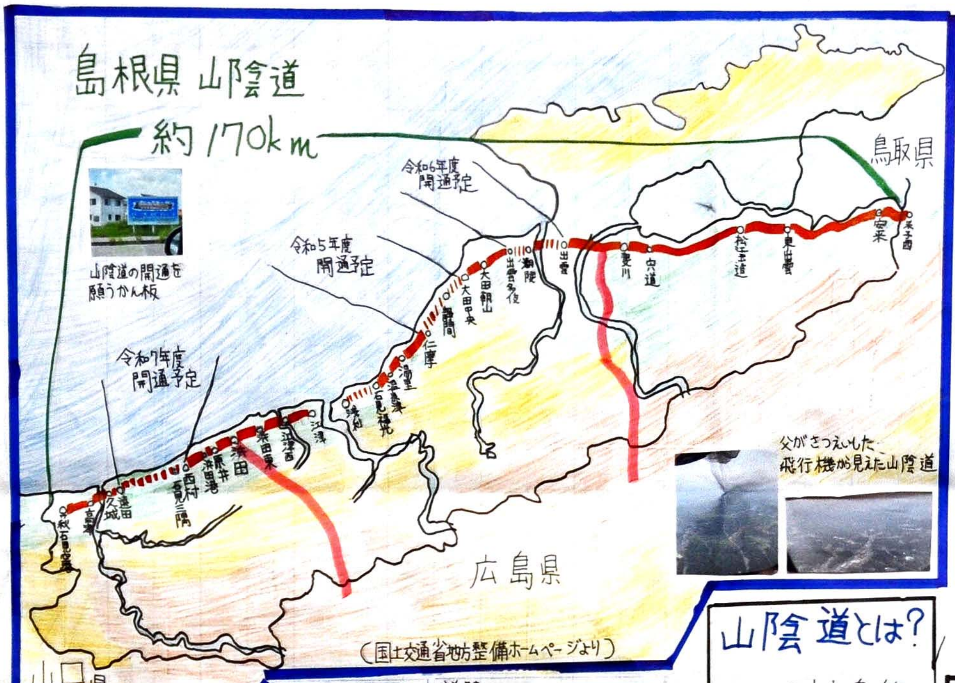
つながれ！山陰道新聞

松江市立中央小学校
5年2組
孝忠遥真
令和4年8月14日(日)

島根県の東西をつなぐ山陰道どこまで開通しているか

一九八五年、米子の今の山陰道の一部がバイパスとして開通した。国が山陰道として建設を認めたのが一九八七年。それから三五年。今、山陰道はどこまで開通しているのか。この夏休み、調べたことをまとめた。また、島根県西部の人にとって、山陰道がどれだけ大切か祖父の話をもとにまとめた。



山陰道の開通を願うかん板

父がさつえいした飛行機から見えた山陰道

（国土交通省地方整備ホームページより）

島根県の一番西の山陰道

開通への思い

「わしらは島根県民じゃないわ。山口県民じゃ。」

僕の母の方の祖父母は益田に住んでいる。僕も夏休みや冬休みは、帰省のために益田に行く。父か母の運転する車で移動することが多い。今年の夏休みも、コロナに気をつけて車で益田へ行った。途中休憩しながら、三時間くらいで到着した。父は「山陰道ができて、すごく早くなったわ。」とよく言っていた。

益田に着いて、父と祖父は松江から益田までの道のことについて昔の話をよくする。

山陰道が今のように通っていなかったころ、益田から松江に車で行くことは、一日かけてのイベントだった。休憩をしないでブンブン走らせても四時間はかかった、普通に休憩しながらだと、五時間から六時間かかった。仕事で松江に用事があるときは、前の日に出かけた。松江に行くのは大変だった。

祖父は言う。「わしらは島根県民じゃない。山口県民じゃ」。

僕と益田の祖父。いつも楽しい話をしてくれる祖父。

「石見は島根とは別だ」。

地図を見てもわかるが、益田は山口に近い。近くには萩市、山口市中国自動車道のインターチェンジも遠くない。祖父は買い物も山口に行く。お客さんが来ても山口に連れて行く。遊びに行くのも山口か広島。松江に行くことは、仕事しかない。山口県民だったら、仕事の移動でも楽だった。

祖父は続けて言う。「石見は島根とは別じゃ」。

「わしが死ぬ前に山陰道ができるかいな」。

松江と益田の間に山陰道が通っていないときの昔の話を聞いていると、島根県はやはり東西に長いのだなと思った。僕は、松江に住んでいるから、あまり不便さを感じたことはなかった。でも西部に住んでいると、いろいろな苦労があったのがわかった。

僕も益田までは遠いと感じていた。車の中でどうやって時間をつぶすかいつも考える。そう簡単に来ることができる距離ではない。祖父は言う。「わしが死ぬ前に、山陰道は完成するかいな」。

益田の祖父にとっても、松江が身近なものとなるように、山陰道には早く開通してほしい。東西に長い島根県が一つになるために。

山陰道とは？

山陰道は東は鳥取県から西は山口県までの、全長約三八〇キロメートルの通路だ。まだ全線は開通していない。島根県は約一七〇キロメートルのうち、一一三キロメートルまで開通している。工事中は五七キロメートルだ。国土交通省中国地方整備のホームページによると、島根県は令和七年までに工事は終了し、予定されているルートの全線が開通予定だ。令和七年に開通予定と、最も開通が遅くなる益田から三隅までのルートの状況を調べてみた。八月十三日、父の車で連れていってもらった。

益田市遠田周辺（八月十三日）

工事中であることを示すかん板

益田市遠田のかん板

山陰道ができると、どれだけ時間短縮になるか、くわしく説明が書かれていた。

益田市遠田の工事現場

この遠田の工事現場から三隅までが、現在工事中で令和七年に開通予定だ。

橋げたはいくつも建っていた。お盆で工事はしていなかった。工事中なのはわかった。

山と山をつなぐ道路の橋げた

国道九号線をさらに三隅に行くと、ひらけた土地にいくつも橋げたが建っていた。

トンネルの工事現場

この道かい上のトンネルに続く。

益田から三隅は山の多いところなのでトンネルもいくつかできるはずだ。そのうち、はっきり九号線からでも工事中で、完成しているところがわかるところが一ヵ所あった。

工事用車両の入口のかん板

国道九号線から見えないところはどうなっているのか、とても気になった。

益田市のはしの方で上のようなかん板を見つけた。工事用車両が入っていける道路だった。関係者しか入ることができないように、警備員が待機できる建物もあった。

山陰道 益田ー三隅のルートの状況は？

浜田市三隅周辺（八月十三日）

工事中を示すかん板

益田から三隅までの国道九号線沿いに、いくつもの工事中を示すかん板があった。大きい車両が移動するのに、九号線は最適だ。入口は、どこも「テロ警戒」で入れないようになっていた。

入口はふうさされている

工事現場のようす

三隅に入ってから、わかりやすい大きい工事現場がいくつかあることに気づいた。休憩室、トイレなど仮設の建物があった。

山と山の間に見える工事現場のようす

三隅町の岡見の周りは、かなり工事を急いで進めているように見えた。橋げたやトンネルなど工事中のようすがよくわかった。

橋げたは、もともと田んぼだったのではないかというところによく建っていた。

工事現場のそばに民家がたくさんあるわけではないが、ポツポツとまだある。これから工事が本格的になると、生活する上で、いろいろ大変なこともあるだろうなと思った。

そして、この山陰道の工事を進めるために、たくさんの大きな車が出入りする。そのための道路をわざわざつくっていることもわかった。

特殊な車両での工事

まだ開通していない益田から三隅の間の一番東の三隅側での工事のようすが上の写真だ。

橋げたの上は道路がすでにできていた。かなり大変な工事だということがわかった。

編集後記

東西に長い島根県が1つになるために！

益田には、山陰道の早期開通を求めるかん板がたくさんあった。山陰道が開通することで島根県西部の人の生活が変わる。東部の人の生活も変わる。コロナ禍で修学旅行を県内で行っていると聞く。市部の小中学生にも県西部の魅力が伝わってきている。父も言っていた。「子どもたちは西部のことを知らない、行ったことがない人もほとんどだ」。島根県の西部と東部の人の交流が進む。観光客などの人も増えている。

そして高速道路はものの流通も進める。今でこそ松江でも見られるセブンイレブン・島根県で初めて出店したのは、江津、浜田だった。なぜか。それは浜田道があったからではないか。そう父は言っていた。「浜田道が流通経路になっていたから」。僕は小さいころ、出雲で暮らしていた。松江にいる祖父母に会うために出雲から松江に車で向かった。斐川のインターチェンジから乗っていたらしい。その斐川のインターチェンジのそばの大きな工場(会社)の桜を母と見に行ったことがある。斐川のインターチェンジのそばにはたくさんの大きな工場がある。その工場で生産されたものをトラックで運ぶ。そのときに山陰道は大きな意味をもつ。

山陰道には、東と西をつなぎ、人や物を運ぶ重要な役割がある。早く開通することを楽しみにしている。

山陰道に求められる機能

（国土交通省中国地方整備ホームページより）

○ 地方の中心都市を効率的に連絡
○ 重要な空港港湾と高規格幹線道路の連絡（主な高速道路）
○ 全国にわたる高速交通サービスを均等にする。
○ 災害発生時等に対する高速交通システムの信頼性の向上。